

令和4年1月5日

令和3年度 学校評価 自己評価書（2学期）

1 学校の重点目標

- 確かな学力の育成と表現力の向上
- 心の教育の充実
- 体力の向上と健康・安全指導の充実
- 特別支援教育の充実

2 課題と改善策（職員）

※ 数値は4段階評価の平均、**太数字**は向上した内容

| | 評価項目 | R3.1学期 | R3.2学期 | 評価結果と改善方策 |
|------|--------------------------------|--------|------------|--|
| 重点項目 | 1 確かな学力の育成と表現力の向上 | 3.1 | 3.2 | ○ 指導内容の工夫と検証を図り、自分から進んで学ぶ児童の姿を目指す必要がある。 ○ 授業における navima の活用場面を明確にし、児童一人一人に対する指導の在り方を追究する。 |
| | 2 全教育活動を通じた人権同和教育の推進 | 3.0 | 3.4 | |
| | 3 基礎・基本の定着と、補充・発展的な指導 | 3.3 | 3.5 | |
| | 4 特別支援教育の充実 | 3.1 | 3.2 | |
| 生徒指導 | 1 一事徹底（立ち止まって元気にあいさつ）の指導 | 3.2 | 3.4 | ○ 地域における挨拶、互いの挨拶について教児共に考えを深める必要がある。 ○ ICT 機器の使い方を児童同士で話し合う活動を位置付けたり、児童の主体的な活動に対する価値付けを行ったりする必要がある。 |
| | 2 いじめや差別のない学級づくり | 3.4 | 3.5 | |
| | 3 教育相談の計画的な実施 | 3.2 | 3.9 | |
| | 4 自主的・主体的な活動の推進 | 3.2 | 3.5 | |
| 学力向上 | 1 複式指導の充実を図る | 3.1 | 3.7 | ○ 予習型授業と複式指導の融合を図る。 ○ タブレットパソコンや、ICT機器活用の充実を図り、プライバシーポリシーに則った発信を行う。 ○ DQ world を位置付けた情報モラルカリキュラム作成を行う。 |
| | 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習過程の質的改善 | 3.2 | 3.4 | |
| | 3 ICT の活用を通じた授業改善 | 3.6 | 3.9 | |
| 心の教育 | 1 全教育活動を通して、道徳性の向上を図る。 | 3.1 | 3.5 | ○ 東京都渋谷区の小学校との交流によって適切な相手意識を高める。 ○ 心の教育の手法や、カウンセリングマインドに基づいた教育相談の在り方と、児童の自己指導力を高めるための指導法研修を充実する。 |
| | 2 節度や節制のある行動のできる児童の育成を目指す。 | 3.1 | 3.4 | |
| | 3 いじめや差別を許さない、人権尊重の心の育成 | 3.3 | 3.4 | |
| 体力向上 | 1 教科体育・教科外体育の充実 | 3.2 | 3.6 | ○ 児童が主体的に行うランニングと、なわとび運動の継続を図る。 ○ 感染症対策を徹底するとともに、給食係、調理嘱託員と連携し、児童自ら育てた作物をいただく。 ○ 事前・事後の指導を徹底する。 |
| | 2 施設設備の安全点検の実施や、危険箇所の早期発見と改善 | 3.7 | 3.9 | |
| | 3 給食指導の徹底 | 3.3 | 3.4 | |
| 教育環境 | 1 児童作品による教室や廊下・特別教室等の設営の適宜更新 | 3.1 | 3.4 | ○ 学期を追うごとに追加できる掲示ができるように年間計画を作成する。 ○ 適切な備品整理を行うとともに購入と廃棄の管理の徹底を図る。 |
| | 2 備品等の使いやすい状態での管理 | 3.1 | 3.5 | |

3 次学期に向けての取組

- 桜島のよさを感じとることのできる、郷土色豊かな教育課程の実施（総合的な学習の時間の充実・バイオニア海洋教育スクールプログラム）、小大連携、桜島大根プロジェクトのまとめを行う。
- 学校教育目標の重点について具現化を図るとともに、令和4年度教育課程の編成に向けた修正を毎月実施する（Microsoft Teams の有効活用）。
- 自己の目標を明確にした学習活動や体力づくりの徹底を図るとともに、新型コロナウイルス感染症予防に努める。
- GIGA スクール構想を具現化するための各教科・領域の指導計画の実施と検証を行うとともに、教育の情報化における研究公開のまとめを行う（令和4年2月公開）。